



## 割り込み

- [割り込みの概要 \(1 ページ\)](#)
- [割り込みの設定タスク フロー \(4 ページ\)](#)
- [割り込みの連携動作 \(12 ページ\)](#)
- [割り込みの制限 \(13 ページ\)](#)
- [割り込みのトラブルシューティング \(14 ページ\)](#)

### 割り込みの概要

割り込みを使用すると、共有回線上のリモートでアクティブなコールにユーザを追加できます。回線のリモートでアクティブなコールとは、その回線で電話番号を共有する別のデバイスとの間のアクティブな（接続された）コールのことです。

パーティ参加トーンを設定すると、基本コールが割り込みコールまたはC割り込みコールに変更されたときに電話機でトーンが再生されます。また、参加者がマルチパーティコールから退出したときも別のトーンが再生されます。

電話機は、次の会議モードで割り込みをサポートします。

- 割り込まれる電話機でのビルトイン会議ブリッジ：このモードでは、[割り込み (Barge)] ソフトキーを使用します。ほとんどの Cisco Unified IP Phone に、ビルトイン会議ブリッジ機能があります。
- 共有会議ブリッジ：このモードでは、[C 割り込み (cBarge)] ソフトキーを使用します。

リモートで使用中のコール状態で[割り込み (Barge)] ソフトキーまたは[C 割り込み (cBarge)] ソフトキーを押すと、ユーザがすべての参加者とのコールに追加され、参加者全員が割り込みビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みに失敗した場合は、元のコールがアクティブなままになります。使用可能な会議ブリッジ（ビルトインまたは共有）がない場合、割り込み要求は拒否され、割り込み発信側のデバイスにメッセージが表示されます。ネットワークまたは Cisco Unified Communications Manager で障害が発生した場合、割り込みコールは保持されます。

割り込みをサポートする Cisco Unified IP Phone のリストについては、Cisco Unified Reporting にログインして、[Unified CM Phone 機能リスト (Unified CM Phone Feature List)] レポートを実

行します。必ず、機能として[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] 選択してください。詳細は、[電話機能一覧の生成](#)を参照してください。

### ワンボタン割り込みおよびワンボタンC割り込み

ワンボタン割り込み機能およびワンボタンC割り込み機能を使用すると、ユーザはリモートでアクティブなコールの共有回線ボタンを押してコールに参加できます。参加者全員が、割り込みビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みに障害が発生した場合、元のコールはアクティブなままとなります。

電話機は、次の2つの会議モードでワンボタン割り込みとワンボタンC割り込みをサポートします。

- 割り込まれる電話機でのビルトイン会議ブリッジ：このモードでは、ワンボタン割り込み機能を使用します。
- 共有会議ブリッジ：このモードでは、ワンボタンC割り込み機能を使用します。

リモートで使用中のコールで共有回線ボタンを押すと、ユーザがすべての参加者とのコールに追加され、参加者全員が割り込みビープ音を受信します（設定されている場合）。割り込みに障害が発生した場合、元のコールはアクティブなままとなります。使用可能な会議ブリッジ（ビルトインまたは共有）がない場合、割り込み要求は拒否され、割り込み発信側のデバイスにメッセージが表示されます。

## 組み込み会議

ユーザが[割り込み (Barge)] ソフトキーまたは共有回線ボタンを押すと、組み込み会議ブリッジが使用可能な場合にこのブリッジを使用して割り込みコールが設定されます。組み込み会議ブリッジは、割り込みが設定されていると元のコールへのメディアの中断および表示変更が行われないため、便利です。

## 共有会議

ユーザが[C割り込み (cBarge)] ソフトキーまたは共有回線ボタンを押すと、共有会議ブリッジが使用可能な場合にこのブリッジを使用して割り込みコールが設定されます。元のコールが分割され、会議ブリッジに参加します。これにより、短いメディア割り込みが発生します。参加者全員のコール情報が[割り込み (Barge)] に変わります。「」割り込み先コールが会議コールになり、割り込み対象デバイスが会議の開催者になります。会議の開催者は、会議にさらに参加者を追加するか、または参加者を削除できます。いずれかの参加者がコールを解放すると、残り2人の参加者に対し短い中断が発生し、これらの参加者はポイントツーポイントコールとして再接続されます。これにより、共有会議リソースが解放されます。

## 組み込み会議と共有会議の相違点

組み込み会議ブリッジと共有会議での割り込みの相違点を次の表に示します。

機能	組み込み会議への割り込み	共有会議への割り込み
<p>標準ソフトキー テンプレートに [割り込み (Barge) ]/[C 割り込み (cBarge) ]ソフトキーが含まれている。</p> <p>(注) ワンボタン割り込み/C割り込み機能が有効な場合、このソフトキーは使用されません。</p>	あり	なし
割り込みのセットアップ中にメディアの切断が発生する。	なし	あり
設定されている場合、ユーザが割り込み設定トーンを受信する。	対応	対応
割り込み元の電話にテキストを表示する。	[割り込み XXX (To barge XXX) ]	[会議 (To Conference) ]
相手側の電話にテキストを表示する。	他の参加者へ/他の参加者から	[会議 (To Conference) ]
その他の電話にテキストが表示される。	着信側へ/着信側から	[会議 (To Conference) ]
ブリッジで、すでに割り込まれたコールへの2回目の割り込みの設定がサポートされている。	なし	あり
割り込み元がコールを解放する。	元の2人の参加者で、メディアの中断は発生しません。	2人の参加者のみが残っており、残りの参加者をポイントツーポイントのコールとして再接続するときに、共有会議ブリッジ解放のためメディアの中断が発生します。
相手側がコールを解放する。	発信側を他の参加者とポイントツーポイント コールとして接続するために、メディアの中断が発生します。	2人の参加者のみが残っており、残りの参加者をポイントツーポイントのコールとして再接続するときに、共有会議ブリッジ解放のためメディアの中断が発生します。

機能	組み込み会議への割り込み	共有会議への割り込み
他の参加者がコールを解放する。	3人の参加者すべてが解放されます。	2人の参加者のみが残っており、残りの参加者をポイントツーポイントのコールとして再接続するときに、共有会議ブリッジ解放のためメディアの中断が発生します。
相手側はコールを保留にして、直接転送、参加、またはコールパークを実行します。	割り込み元が解放されます。	発信側および他の参加者は接続されたままになります。

## 割り込みの設定タスクフロー

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	組み込み会議用のソフトキーテンプレートの設定 (5 ページ)	ソフトキーテンプレートに [割り込み (Barge)] ソフトキーを追加します。組み込みの会議ブリッジの割り込みを設定するには、次の手順に従います。
ステップ 2	共有会議用ソフトキーテンプレートの設定 (6 ページ)	ソフトキーテンプレートに [会議ブリッジの割り込み (cBarge)] ソフトキーを追加します。共有会議ブリッジの割り込みを設定するには、次の手順に従います。
ステップ 3	共通デバイス設定とソフトキーテンプレートの関連付け (8 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行 <ul style="list-style-type: none"> <li>共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加 (8 ページ)</li> <li>電話機と共通デバイス設定の関連付け (9 ページ)</li> </ul>	これはオプションです。ソフトキーテンプレートを電話機で使用できるようにするには、この手順か次の手順のいずれかを実行する必要があります。システムが共通デバイス設定を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従ってください。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。
ステップ 4	電話機とソフトキーテンプレートの関連付け (7 ページ)	これはオプションです。次の手順は、ソフトキーテンプレートと共通デバイス設定を関連付けるための代替手段として、または共通デバイス設定と共に使用します。ソフトキーテンプレートを適

	コマンドまたはアクション	目的
		用して、共通デバイス設定での割り当てや、他のデフォルトのソフトキーを上書きする必要がある場合は、次の手順を共通デバイス設定と共に使用します。
ステップ 5	組み込み会議の割り込みの設定 (10 ページ)	組み込みの会議ブリッジの割り込みを設定します。
ステップ 6	共有会議の割り込みの設定 (11 ページ)	共有会議ブリッジの割り込みを設定します。
ステップ 7	ユーザとデバイスの関連付け	ユーザとデバイスを関連付けます。

## 組み込み会議用のソフトキー テンプレートの設定

割り込みのためのソフトキーテンプレートを設定し、そのテンプレートに[割り込み (Barge) ]ソフトキーを割り当てます。[割り込み (Barge) ]ソフトキーは[リモートで使用 (Remote In Use) ]のコールの状態を設定できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[ソフトキー テンプレート (Softkey Template) ]。
- ステップ 2** 新しいソフトキーテンプレートを作成するには、以下の手順を実行します。それ以外の場合は次のステップに進みます。
- [新規追加 (Add New) ] をクリックします。
  - デフォルトのテンプレートを選択して、[コピー (Copy) ] をクリックします。
  - [ソフトキーテンプレート名 (Softkey Template Name) ] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
  - [保存 (Save) ] をクリックします。
- ステップ 3** 既存のテンプレートにソフトキーを追加するには、以下の手順を実行します。
- [検索 (Find) ] をクリックし、検索条件を入力します。
  - 必要な既存のテンプレートを選択します。
- ステップ 4** [デフォルト ソフトキー テンプレート (Default Softkey Template) ] チェックボックスをオンにし、このソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定します。
- (注) あるソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除することができません。
- ステップ 5** 右上隅にある [関連リンク (Related Links) ] ドロップダウン リストから [ソフトキー レイアウトの設定 (Configure Softkey Layout) ] を選択し、[移動 (Go) ] をクリックします。

- ステップ 6** [設定するコール状態の選択 (Select a Call State to Configure)] ドロップダウンリストから、ソフトキーに表示するコール状態を選択します。
- ステップ 7** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストから追加するソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] リストにそのソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。
- ステップ 8** 追加のコールステータスのソフトキーを表示するには、上記のステップを繰り返します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10** 次のいずれかの作業を実行します。
- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、**[設定の適用 (Apply Config)]** をクリックしてデバイスを再起動します。
  - 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。詳細については、「共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加」および「電話機とソフトキーテンプレートの関連付け」の項を参照してください。

#### 次のタスク

次のいずれかの手順を実行します。

- [共通デバイス設定へのソフトキー テンプレートの追加 \(8 ページ\)](#)
- [電話機と共通デバイス設定の関連付け \(9 ページ\)](#)

## 共有会議用ソフトキー テンプレートの設定

共有会議用ソフトキーテンプレートを設定し、C 割り込みソフトキーをそのテンプレートに割り当てます。[リモート使用中 (Remote In Use)] 発信状態で C 割り込みソフトキーを設定できます。

#### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]。
- ステップ 2** 新しいソフトキーテンプレートを作成するには、以下の手順を実行します。それ以外の場合は次のステップに進みます。
- a) **[新規追加 (Add New)]** をクリックします。
  - b) デフォルトのテンプレートを選択して、**[コピー (Copy)]** をクリックします。
  - c) **[ソフトキーテンプレート名 (Softkey Template Name)]** フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
  - d) **[保存 (Save)]** をクリックします。
- ステップ 3** 既存のテンプレートにソフトキーを追加するには、以下の手順を実行します。

- a) **[検索 (Find)]** をクリックし、検索条件を入力します。
- b) 必要な既存のテンプレートを選択します。
- ステップ 4** [デフォルト ソフトキー テンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにし、このソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定します。
- (注) あるソフトキー テンプレートをデフォルトのソフトキー テンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除することができません。
- ステップ 5** 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [ソフトキー レイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6** [設定するコール状態の選択 (Select a Call State to Configure)] ドロップダウン リストから、ソフトキーに表示するコール状態を選択します。
- ステップ 7** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストから追加するソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] リストにそのソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。
- ステップ 8** 追加のコール ステータスのソフトキーを表示するには、上記のステップを繰り返します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10** 次のいずれかの作業を実行します。
- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、**[設定の適用 (Apply Config)]** をクリックしてデバイスを再起動します。
  - 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。詳細については、「共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加」および「電話機とソフトキーテンプレートの関連付け」の項を参照してください。

## 電話機とソフトキー テンプレートの関連付け

### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、**[デバイス (Device)]** > **[電話 (Phone)]** を選択します。  
**[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)]** ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ソフトキー テンプレートを追加する電話機を検索します。
- ステップ 3** 次のいずれかの作業を実行します。
- **[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]** ドロップダウン リストから、必要なソフトキー テンプレートが含まれている共通デバイス設定を選択します。

- [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストで、[割り込み (Barge)] または [C 割り込み (cBarge)] ソフトキーが含まれているテンプレートを選択します。

**ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

電話の設定を更新するには [リセット (Reset)] を押すというメッセージ付きのダイアログボックスが表示されます。

---

## 共通デバイス設定とソフトキーテンプレートの関連付け

オプションソフトキーテンプレートを電話機に関連付ける方法は 2 つあります。

- ソフトキーテンプレートを [電話の設定 (Phone Configuration)] に追加する。
- ソフトキーテンプレートを **共通デバイス設定** に追加する。

ここに示す手順では、ソフトキーテンプレートを **共通デバイス設定** に関連付ける方法について説明します。システムが **共通デバイス設定** を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従ってください。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。

別の方法を使用するには、[電話機とソフトキーテンプレートの関連付け \(7 ページ\)](#) を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** [共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加](#)

**ステップ 2** [電話機と共通デバイス設定の関連付け](#)

---

## 共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加

### 始める前に

必要に応じて、次のいずれかまたは両方を実行します。

- [組み込み会議用のソフトキーテンプレートの設定 \(5 ページ\)](#)
- [共有会議用ソフトキーテンプレートの設定 \(6 ページ\)](#)



## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]。
- ステップ 2** 新しい共通デバイス設定を作成し、それにソフトキーテンプレートを関連付けるには、以下の手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- [Add New] をクリックします。
  - [名前 (Name)] フィールドに、共通デバイス設定の名前を入力します。
  - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 3** 既存の共通デバイス設定にソフトキーテンプレートを追加するには、以下の手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックし、検索条件を入力します。
  - 既存の共通デバイス設定をクリックします。
- ステップ 4** [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストで、使用可能にするソフトキーが含まれているソフトキーテンプレートを選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** 次のいずれかの作業を実行します。
- すでにデバイスに関連付けられている共通デバイス設定を変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
  - 新しい共通デバイス設定を作成してその設定をデバイスに関連付けた後に、デバイスを再起動します。

## 電話機と共通デバイス設定の関連付け

### 始める前に

必要に応じて、次のいずれかまたは両方を実行します。

- [組み込み会議用のソフトキーテンプレートの設定 \(5 ページ\)](#)
- [共有会議用ソフトキーテンプレートの設定 \(6 ページ\)](#)

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして電話デバイスを選択し、ソフトキーテンプレートを追加します。

- ステップ 3** [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ドロップダウン リストから、新しいソフトウェア テンプレートが含まれている共通デバイス設定を選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** [リセット (Reset)] をクリックして、電話機の設定を更新します。

---

#### 次のタスク

次のいずれかまたは両方を実行します。

- [組み込み会議の割り込みの設定 \(10 ページ\)](#)
- [共有会議の割り込みの設定 \(11 ページ\)](#)

## 組み込み会議の割り込みの設定

ほとんどの Cisco Unified IP Phone には会議ブリッジ機能が組み込まれています。つまり、これらの Cisco IP Phone には、割り込み機能をサポートするための小型の会議ブリッジとして動作する内部 DSP が搭載されています。サポートされる通話者は、電話機自体を含め 3 つまでです。ファームウェアバージョン 11.x 以降、Cisco IP Phone 8800 シリーズにはビルトインブリッジ (BIB) 機能をデイジーチェーン接続する機能があります。

#### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択し、[組み込みブリッジの有効化 (Built In Bridge Enable)] クラスタ全体サービスパラメータを [オン (On)] に設定します。
- (注) このパラメータが [オフ (Off)] に設定されている場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [組み込みブリッジ (Built in Bridge)] フィールドを設定することにより、各電話機の割り込みを設定してください。
- ステップ 2** クラスタ全体のサービスパラメータの [パーティ エントランス トーン (Party Entrance Tone)] を [はい (True)] に設定するか (トーンを使用する場合に必要)、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [パーティ エントランス トーン (Party Entrance Tone)] フィールドを設定します。
- ステップ 3** [ワンボタン割り込み/C 割り込みポリシー (Single Button Barge/CBarge Policy)] を [割り込み (Barge)] に設定します。
- (注) このパラメータが [オフ (Off)] に設定されている場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ワンボタン割り込み (Single Button Barge)] フィールドを設定することにより、各電話機のワンボタン割り込み機能を設定してください。
- ステップ 4** [呼び出し時の割り込みを許可 (Allow Barge When Ringing)] サービスパラメータを [はい (True)] に設定します。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

## 共有会議の割り込みの設定

シスコは割り込みを設定しているユーザに対して共有会議の割り込み（C割り込み）を設定しないことをお勧めします。各ユーザに対して1つの割り込みメソッドを選択します。

### 手順

ステップ1 Cisco Unified CMの管理で、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択し、[組み込みブリッジの有効化 (Built In Bridge Enable)] クラスタ全体サービスパラメータを [オン (On)] に設定します。

(注) このパラメータを [Off] に設定する場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [組み込みブリッジ (Built in Bridge)] フィールドを設定することで、電話ごとのC割り込みを設定します。

ステップ2 [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] クラスタ全体サービスパラメータを [True] (トーンに対する要件) に設定するか、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] フィールドを設定します。

ステップ3 [ワンボタン割り込み機能/C割り込みポリシー (Single Button Barge/CBarge Policy)] に [C割り込み (cBarge)] を設定します。

(注) このパラメータを [Off] に設定する場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ワンボタンC割り込み (Single Button cBarge)] フィールドを設定することで、電話ごとのワンボタンC割り込みを設定します。

ステップ4 [呼び出し時の割り込みを許可 (Allow Barge When Ringing)] サービスパラメータを [はい (True)] に設定します。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

## ユーザとデバイスの関連付け

### 始める前に

次のいずれかまたは両方を実行します。

- [組み込み会議の割り込みの設定 \(10 ページ\)](#)
- [共有会議の割り込みの設定 \(11 ページ\)](#)

手順

- 
- ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] を選択します。
  - ステップ2 [ユーザを次の条件で検索 (Find Users Where)] フィールドで適切なフィルタを指定した後、[検索 (Find)] をクリックしてユーザのリストを取得します。
  - ステップ3 ユーザを一覧から選択します。  
[エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ4 [デバイス情報 (Device Information)] セクションを探します。
  - ステップ5 [デバイスの割り当て (Device Association)] をクリックします。  
[ユーザ デバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ6 適切な CTI リモート デバイスを探して選択します。
  - ステップ7 関連付けを完了するには、[選択/変更の保存 (Save Selected/Changes)] をクリックします。
  - ステップ8 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [ユーザの設定に戻る (Back to User)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。  
[エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択し、割り当てたデバイスが、[制御するデバイス (Controlled Devices)] ペインに表示されます。
- 

## 割り込みの連携動作

機能	データのやり取り
C 割り込み	<p>[割り込み (Barge)] ソフトキーと [C 割り込み (cBarge)] ソフトキーのどちらかをソフトキー テンプレートに割り当てることをお勧めします。各デバイスにこれらのソフトキーのどちらかだけを設定することにより、ユーザの混乱を防ぎ、潜在的なパフォーマンスの問題を避けることができます。</p> <p>(注) デバイスに対してワンボタン割り込み機能またはワンボタン C 割り込み機能を有効にすることはできませんが、両方を有効にすることはできません。</p>
コール パーク	<p>着信側がコールをパークすると、割り込み発信者が解放される (組み込みブリッジを使用している場合) か、割り込み発信者との通話相手が接続されたままになります (共有会議を使用している場合)。</p>
参加	<p>着信側が別のコールを使用してコールに参加すると、割り込み発信者が解放される (組み込みブリッジを使用している場合) か、割り込み発信者との通話相手が接続されたままになります (共有会議を使用している場合)。</p>

機能	データのやり取り
<p>PLAR (Private Line Automatic Ringdown)</p>	<p>割り込み、C割り込み、ワンボタン割り込み機能の発信者は、割り込みと Private Line Automatic Ringdown (PLAR) 用に設定された共有回線経由でコールに割り込むことができます。割り込み着信側がコール中に PLAR 回線に関連付けられた事前に設定された番号を使用している場合は、発信者がそのコールに割り込むことができます。Cisco Unified Communications Manager は、割り込みコールを接続する前に PLAR 回線に割り込み呼び出しを送信しないため、PLAR 接続先の状態に関係なく割り込みが発生します。</p> <p>割り込み、C割り込み、ワンボタン割り込み機能を PLAR と一緒に使用するには、割り込み、C割り込み、ワンボタン割り込み機能を設定する必要があります。加えて、PLAR 接続先、つまり、PLAR 専用で使用される電話番号を設定する必要があります。</p>

## 割り込みの制限

制約事項	説明
追加の発信者	割り込み発信側が別の通話相手を会議に参加させることはできません。
コンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI)	CTI は TAPI と JTAPI アプリケーションが起動する API によって割り込みをサポートしていません。CTI は [割り込み (Barge) ] または [C 割り込み (cBarge) ] ソフトキーを使用して IP Phone から手動で呼び出される割り込みのイベントを生成します。
G.711 コーデック	元のコールには G.711 コーデックが必要です。G.711 を使用できない場合、代わりに C 割り込みを使用します。
Cisco Unified IP Phone	[割り込み (Barge) ] ソフトキーを含むソフトキー テンプレートをソフトキーを使用するすべての IP Phone に割り当てることができます。ただし、一部の IP Phone では割り込み機能をサポートしていません。
暗号化	Cisco Unified IP Phone 7960 および 7940 に暗号化を設定する場合、暗号化されたコールに参加している間、それらの暗号化されたデバイスは割り込みリクエストを受け付けることができません。コールが暗号化されていると、割り込みの試行は失敗します。電話機では、割り込みが失敗したことを示すトーンが再生されます。
コールの最大数	会議の共有回線のユーザ数が割り込みを試行しているデバイスの [コール最大数 (Maximum Number of Calls) ] 設定と同じか大きい場合、電話機にメッセージ [エラー：過去の制限 (Error: Past Limit) ] が表示されます。

# 割り込みのトラブルシューティング

## 使用可能な会議ブリッジがない

[割り込み (Barge)] ソフトキーを押すと、IP Phone に「使用可能な会議ブリッジがありません (No Conference Bridge Available)」というメッセージが表示されます。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] フィールドで対象の電話機が正しく設定されていません。

問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. Cisco Unified CM の管理から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択して [電話の検索 (Find the phone)] をクリックし、問題がある電話機の電話機設定を見つけます。
2. [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] フィールドを [オン (On)] に設定します。
3. [更新 (Update)] をクリックします。
4. 電話機をリセットします。

## エラー：過去の制限

電話に、メッセージ [エラー：過去の制限 (Error: Past Limit)] が表示されます。

会議の共有回線のユーザ数が割り込みを試行しているデバイスの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] フィールドと同じか大きい。

- [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに移動して、[クラスタ全体のパラメータ (機能 - 会議) (Clusterwide Parameters (Feature - Conference))] を探します。必要に応じて、[最大アドホック会議 (Maximum Ad Hoc Conference)] パラメータの値を増加させます。
- 割り込みを試行しているデバイスの共有回線の [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] の値を確認して、必要に応じて値を増加させます。